

1. 開催日時、場所

平成 23 年 6 月 1 日（水） 11 : 00 ~ 12 : 00

香川大学農学部 大会議室

2. テーマ

食品衛生からみた放射性物質汚染食品の安全性について

3. 講演者

香川大学農学部教授 川村 理

4. 共催

四国経済産業局、香川大学大学院農学研究科、香川大学農学部食品安全機能解析  
研究センター

5. 参加者

企業及び一般の方 14 名、教職員・学生 28 名 計 42 名

6. 内容など

今年 3 月の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の放射性物質流出事故を受け、「日本の食の安全」の観点から、放射性物質汚染食品の安全性に関するシンポジウムを開催した。

放射線物質による食品汚染に不安を抱えているという人が多いという現状を踏まえ、科学的知見に基づく食品の安全性を説くのが主なねらいであった。

始めに、放射線や放射性物質の基礎知識の紹介が、次に、日常生活で浴びる自然放射線量についての説明があった。後半では、福島原子力発電所の事故後に設定された食品中の放射性物質の暫定規制値とその値の合理性について話があった。その中で、現在設定されている規制値は世界的にみても厳しいものであり、また、その規制値を超えた食品を数回摂取した程度では人体に影響がない旨の説明があった。

質疑応答では、放射線が体内にどの程度残るかなど人体への影響についての質問が相次いだ。この質疑応答を含め、今回のシンポジウムは、科学的知識を正しく身につけることで不必要な不安が解消されることを伝える良い機会となった。

